

お母さんに、叱しかられ、兒こに啼なかれ。ねん〜し

てくれ、後生ごしょうになる。御所ごしよは、八幡やまはたの、八幡堂やまはたどう。

八幡堂やまはたどうから、日ひが暮くれて。今夜こんやは、何處どこへ、宿とま

らうかね。道みちの端はたの、一軒屋けんやへ、宿とまらうかね。

道みちのはたの、一軒屋けんやへ、宿とまつたれは。粟飯あはむひ稗飯ひえめし、

蕪汗わあせで。それが、甘あまいとて、たんと喰たべた。

◎ねんねの、お守まもりは、何處どこへ行いつた。ああの山越やまこ

へて、お實家さとへ行いつた、お實家さとの土産つちさんに、何なにを貰もらつ

た。ペンペン大鼓たいこに、京きやうの笛ふえ。おキヤキヤに、コ

ボシに、風車かまぐるま。かアぞや、車くるまで、だまされたア。

◎己おぢアが坊ぼやを、だれがかまつた。誰だれもかまひは、

しなえけれど、一人ひとりでころんで、それで啼なく。な

アくとおたかに、喰くはせるぞ。啼なぬとおたかに、

喰くはせねど。

◎己おぢアが坊ぼやは、何なにせで啼なく。ねぶたえが、こじ

れて、それで啼なく、鼻はなのなる時ときや、可愛かほいいけんぞ。

かきやきやと、啼なく時ときや、にくくなる。

◎ねんねこ、猫ねこの臀しつへ、火ひがはんねた。婆ばあ々が。

魂たま消けて、お湯ゆかけた。お湯ゆは、熱あついから、水みづかけ

ろー、

◎己おぢアが、坊ぼやは、いつ生うまれた。三月さくがら、櫻はなの花はなの、

咲さく時ときに、どれでか、お顔かほが、櫻さくら色いろ。

~~~~~

豫州南部の手毬歌

伊豫 清家 みする

○手毬てまりと手毬てまりと往ゆと合あふて、一つの手毬てまりの言いふこ

とにや、一年奉公ねんほうこうをしようやないか、一年奉公ねんほうこうは

私わしやいやよ、二年奉公ねんほうこうをしようやないか、二年奉公ねんほうこうは

私わしやいやよ、三年奉公ねんほうこうを仕した時は、朝あさは

とーからおつきして、ちやん〜茶釜ちやがまに水みづさして

ぢいさんばいさん起きなせ、ちやつ茶もぼん

く沸いて居る、起きて飯くて茶々飲んだ

○お姫様お姫さま、御殿山には花が咲きます。三味線持つて、参ませうや、オーソレよかる、はつすのお重ににぎく詰めて、たさ午莠に胡麻振りかけて、椎茸さん、松茸さん、頭のどんつへ毛が生えた、夕べも剃つたに、また生えた。

○わしの姉さん三人ござる 一人姉さん太鼓がお上手、一人姉さんつみみがお上手、一人姉さん糸やでござる、糸や一番だて着でござる。京で帯買ふて大坂でくけて、夫を結んで花見にいたら、寺の小僧さんに抱き留められて、帯が切れたらやばつしてたもれ、帯が切れたらつなぎもな一ろが、えんが切れたら繋ぎもな一らぬ、私し帯にはくどきがござる、梅に鶯むらく雀、

羽を揃へて飛ぶどころ

○一つでは乳を飲み初め、二つでは乳を離して、三つでは放し草履をはき初め、はき初め、四つでは用をき初め、五つでは糸をどり初め、六つでは六つ手ころばたお一り初め、七つでは何にも爲ならんて、八つでは綾やころばたお一り初め、九つでは嫁入していて、十で殿御さんとね一初めた、ね一初めた、十一ではやゝをも一けて、宮へ参らそ一か、寺へ参らそ一か、寺へ参つたら、雨も降らん雪も降らんに椽の下から水が出て来て、こまん小袖を流がした流がした、次郎よ取つて呉れ、太郎よ取つて呉れ、次郎もよとらん、太郎もよとらん、取つて呉れたら私しの一期の殿にしよと一のにしよ